



校長室だより 2

黒部市立村椿小学校

文責：校長 寺島紀子

令和7年10月31日

第23号

このところ、市のスクールバスを使っ
ての校外学習や、地区のボランティアの
方々にサポートをしていただく授業を頻
繁に行っています。学校の外に出て実物
に触れたり現場で働いている方から説明
を聞いたりする学習は子供にとってより
記憶に残るものと思います。また地域在
住の方に教えてもらいながらの学習は技
能を身に付けるだけでなく、自分たちを見
守ってくださる地域の大人の存在を直接感
じられるよい機会です。「うちの近所の人
だな〔子供だな〕」と気付いて、嬉しそう
にしている顔も時々見られます。

学年別のこうした学習の様子は学校 HP
でも随時お知らせしていますので、是非定
期的にチェックしてみてください。



読書の秋「こころとあたまの深呼吸」※を・・・！ ※第79回読書週間の標語

★本と触れ合う時間と習慣を意識的につくみましょう

読書の秋です。この時期、全国的にさまざまな運動が進められて
います。「読書の大切さはなんとなく分かっている」「きっかけが
あれば本を読もうとは思っている」という人も多いでしょう。

私は今年度、図書室の本を借りて読んでいます。子供たちと同じ
貸出カードを使って書名や日付を記録しながら、次の本、次の本、
…と続けています。書店で購入する本とは違い、図書室の本は児童
文学が多いのですが、中には大人が読んででも楽しい長編ものもあり、なかなか読み応えがあります。とはい
え、毎日まとまった時間を家で取るのは難しいので、コマ切れの時間でもストレスがたまらず読み切
ることができる短編集を借りることもあります。スマホの充電タイムを就寝時ではなく夕食後の時間にす
ること、その間少しは読書できる時間が生まれます。

忙しい毎日の中で、大人も子供も「落ち着いて本を読む時間がなかなかとれ
ない！」けれど、つついTVやスマホ、ゲームを楽しんでいる時間はあ
るはず。とすれば、読書の時間もちょっと意識することで確保できるのではない
でしょうか。

★本に親しむことは心を豊かにし、支え、人としての教養を深める営みです

今年のノーベル賞を受賞する坂口志文さんと北川進さんが、お二人とも子供
の頃からの読書家であることは、先日の校長室だよりでもふれました。本に親しんで教養を深めたことが
世界的な業績を上げる基礎になったことがうかがえます。また、漫画家
のやなせたかしさんや水木しげるさんが戦争に出征する際に愛読書を持
参し、心の支えにしたというエピソードも有名です。

「将来の夢はYouTuber！」と宣言する子にも、しっかりとした自分
の根っこを形づくるために、是非たくさんの本に触れる読書体験をして
ほしいと願います。まずは読んでみたい本を手元に置くことをおすすめ
します。次の3連休は親子で本屋さんや図書館へ！…どうですか？



図書室で読書の時間、
楽しいよ（1年生）

司書の村椿先生による読み聞かせタイム



★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想・学校へのご意見をお願いします 切 り 取 り できればお名前 or 児童名（ ）

音読発表、始めました

本校では毎週水曜日を「音読の日」とし、家庭学習に音読練習を勧めています（水曜日は「メディアコントロールの日」でもあります）。2学期から、その翌木曜日のランチルームで音読発表をする時間を取ることにしました。

1年生から学年順に毎週発表を開始し、各学年の国語の教科書にある作品を暗唱したり、本を見て音読したりと、それぞれのスタイルで発表しています。また、聞く方も皆静かに耳を澄ましています。

音読は言葉のまとまりや言葉の響きに気をつけ、また内容をよく理解して読む必要があります。また音読するときは、ほかのことに気をとられていると上手くできません。集中力も養われる格好の国語の学習です。



シリーズ「教室におじゃまします」10月27(月)5年国語科の巻

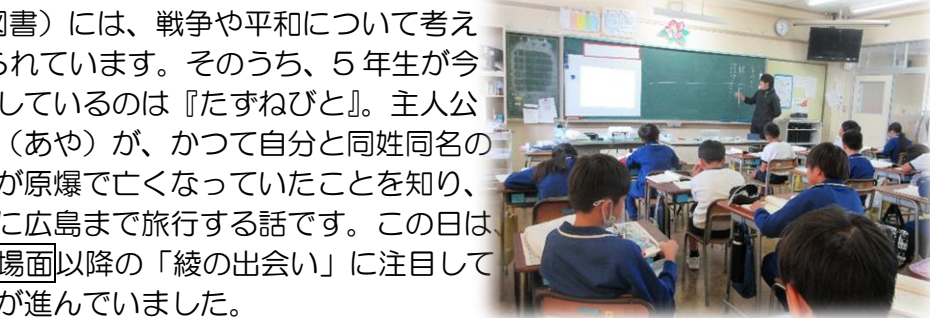
3～5年生の国語の教科書（光村図書）には、戦争や平和について考えさせる文学作品が一つずつ取り上げられています。そのうち、5年生が今

学習しているのは『たずねびと』。主人公の綾（あや）が、かつて自分と同姓同名の少女が原爆で亡くなっていたことを知り、実際に広島まで旅行する話です。この日は四の場面以降の「綾の出会い」に注目して学習が進んでいました。

途中、「秋の空は高く青くすんで、ゆったり流れる川にも～」という部分からどのようなイメージを受けるか、と坪野先生が問いかけました。この『たずねびと』は主人公の「わたし」の語りで物語が進んでいくので、こうした地の文の表現にも「わたし」の思いが表れます。子供たちは少し考えて、「今の広島が穏やかで平和なイメージ」という答えが出ました。情景描写の中にある表現の効果を考えるよい学習になっていると感じました。

また、平和記念資料館の数々の資料や、原爆供養塔の近くにいたおばあさんとの出会いによって、「わたし（綾）」の原爆や戦争に対する思いがどのように変わっていくのかを、皆で押さえていきました。言葉だけでなく挿絵にもよく注目しながら、人物像や物語の全体を具体的に想像する学習ができていました。

先の戦争や原爆について詳しく学習するのは6年生になってからの社会科（歴史）なので、この話を今の時点で理解するには少し難しいところもあるかもしれません。それでも、読み進めるうちに「これ、悲しい話だね」とつぶやく子がいて、「あれ、初めはそうっていなかったよね？」と先生が返しました。この作品を読んで、自分自身の思いにどのような変化があったかをまとめるのも、大事な学習の一つになりそうです。



<おまけのひとりごと>「読書離れ」と合わせて、このごろは書店が減っていることも問題になっていますよね。私が以前勤めていた立山町でも2015年に最後の書店がなくなり、その後町民からの要望に応える形で、去年町役場内のコンビニに小さな本屋さんが併設されました。黒部市内は今のところ数件の書店があるので一安心ですが、「ふらりと入って立ち読み」の人ばかりだと、経営は苦しいでしょう。図書館もいいですが、大人はできるだけ雑誌でも何でもいいので売りに協力しないと、と思います。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想・学校へのご意見をお願いします 切り取り できればお名前 or 児童名()